

議会だより

かたしな

No. 121 平成21年 8月20日発行



PHOTO

7月11日越本祇園祭での御輿

(この御輿を皮切りに、村内各地区で夏祭りが開催されました。)

主な内容

議会構成変わる 議長他就任あいさつ	2
6月定例議会で決めたこと(平成21年6月9日~16日)	3~4
村政を問う 4名が一般質問	5~7
委員会管内視察	8~9
日光市議会議員と意見交換・編集後記	10

議会構成変わる 就任あいさつ



議長 入澤 登喜夫

今後山積している問題に対し、村と議会が一体となつて本村発展と観光・農業・教育・福祉の向上を目指し、職務を全うしたいと考えておりますので、重ねて皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。任のあいさつとさせていただきます。



副議長 大竹 文夫

議員に初当選してから2年、私は一議員として二元代表制の中で議会が果たす役割は一層重要となっております。

これからは、副議長として入澤議長を補佐し、議員相互の意思疎通を密にしていきたいと考えます。

私は行政経験は全くありませんが、村民の皆様のご協力をお願いしつつ、職責を全うする決意です。



議会運営
委員長 吉野 勲

残暑厳しき折、皆様にはお元気にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この度、5月臨時会におきまして、議会運営委員長を拝命いたしました。昨今の片品村を取り巻く社会情勢、経済状況は厳しさを増し、村政の将来像を担う議会は村民の更なる期待に応えるべき責務が増大しております。

もとより、浅学非才の身ではございますが、微力をつくす所存でありますので、今後とも村民各位のご指導をいただきたくお願い申し上げます。就任の挨拶と致します。



総務文教常任
委員長 星野 侃三

村民の皆様におかれましてはご多忙の折、ますますご健勝にてお過ごしのことと推察申し上げます。

わたくし5月の臨時議会におきまして、総務文教常任委員長各位の推薦をいただき常任委員長に就任させていただきました。

微力ではありますが、一生懸命努力し職務を全うする所存でございます。村民の皆様のご指導と協力をお願い申し上げます。



観光産業常任
委員長 戸丸 廣安

委員長に就任しました。一年間、その職にまい進しますので、皆様よろしくお願い致します。

村経済の先行きを考え、委員会としては、「観光と農業の村」として特徴を発揮する施策の確立と推進が急務です。

椎坂峠にトンネルができれば、便利だが、本村は通過地点と化す恐れがあるので、(地産地消が同時にかなう)道の駅レベルの農産物直売等の内外集客施設が必要でしょう。政府や県には、一層のへき地対策や過疎対策を要請します。

この度、5月19日の臨時議会において片品村議会議長の要職に就任させていただくことになりました。私は元より浅学非才でありまして、その器でない事はよく承知しておりますが、皆様のご推挙を受けました上は身を挺してその厚情に応えられるよう覚悟を新たにするとともに、その職務の重さに身が引き締まる思いであります。

社会情勢が不安定な中、アメリカのサブプライム問題に端を発した、百年に一度という世界同時不況が日本経済にも大きな影響を及ぼし、多方面にわたり危機的状況に陥っている今日であります。

また、片品村の長年の念願でもあり、実現を心待ちにしておりました国道120号線椎坂トンネルが周囲の方々のご理解と関係各位のご努力により今年度着工が決まり、早期完成を望むところであります。

片品村議会委員会名簿

（平成21年5月19日現在）
 ◎印＝委員長 ○＝副委員長

観光産業常任委員会				総務文教常任委員会				議会運営委員会				副議長	議長	職名								
飯塚 美明	高橋 正治	吉野 融	星 長命	萩原 日郎	○星野 千里	○戸丸 廣安	入澤 登喜夫	大竹 文夫	萩原 一志	星野 育雄	星野 完治	○笠原 耕作	○星野 侃三	戸丸 廣安	星野 千里	笠原 耕作	星野 侃三	○星野 完治	○吉野 融	大竹 文夫	入澤 登喜夫	氏名

【臨時議会】

◎第4回の臨時議会を開催しました。

期日 平成21年5月19日

◆片品村職員・特別職・議員に支給される平成21年6月の賞与を約10%減額する条例改正が全員賛成で可決。

◆消防ポンプ自動車一台（16,275,000円）購入の売買契約締結案件を可決。

※花咲・登戸地区の入替え：
 ◆今議会前に改正された条例等4件を承認。

1、住宅ローン特別控除の創設と3年毎の固定資産税見直しにおいて現行制度の維持。

2、国民健康保険税を納める際の介護保険分の限度額が9万円から10万円に引き上げられました。

3、国民健康保険特別会計からの繰り出し、

（15,023,000円）

4、3の繰り出しに伴う国民健康保険特別会計の補正対処。

◆片品村議会より選出の利根東部衛生施設組合議会議員が決まりました。

入澤 登喜夫、高橋 正治、笠原 耕作、飯塚 美明、星野 千里



6月定例会

議会6月定例会は、6月9日から16日までの8日間の会期で開催しました。21年度補正予算ほかの議案を審議し、すべて議決しました。

平成21年度一般会計補正予算（議案第50号）

単位：千円

会計名	歳入歳出補正前	補正額	補正後
一般会計(第1号)	3,292,000	58,354	3,350,354

歳入は、地方交付税及び基金繰入を、歳出は、小規模土地改良事業、林道整備事業、村道維持修繕費等で上記補正額を議決しました。

こんな質疑がありました

☆平成21年度一般会計補正予算（議案第50号）についてこんな「質疑」がありました。

問（大竹文夫議員）

今回の補正予算が、地域づくり基金の取り崩しで行われますが、この基金のあり方から、下水道の普及や合併浄化槽の設置推進を抜本的に考えその方策や財政措置を考えているのか聞きたい。

答（村長）

この関係については、農林建設課長から説明をさせます。

答（農林建設課長）

本年度より、下水道普及担当2名を戸別訪問、地区の集会等に向き、普及推進活動を図れる組織をお作り願いたいというところで実施しているところです。

問（大竹文夫議員）

今回、国の臨時交付金や特別交付金が交付されるなかで、片品村のし尿処理施設が、既に飽和状況にあります。抜本的な

措置が執られないままなのか、何らかの計画があるのかお聞きしたい。

【答】(村長)

下水道の加入については、当然村財政を圧迫するわけですので担当課長には、加入促進を早急に図るよう指示している。厳しい経済状況もあり、加入の必要性を理解いただけるよう担当課で進めていきたいと考えている。

【問】(大竹文夫議員)

村としては、新たな財政支出や計画等は、考えていないという事が確認したい。

【答】(村長)

事務段階での取り組みはしておりますが、提案できる段階ではありません。



請願陳情審議結果一覧表

6月定例会において審議された請願陳情は、下記のとおり決定しました。

陳情

受理年月日	件名	陳情者	付託委員会	審議結果
平成21年 3月11日	新たな過疎対策法の制定に関する 意見書の提出について	全国過疎地域自立促進連盟 群馬県支部(群馬県町村会) 支部長 宮前 敏十郎	観光産業	採択

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、
総務大臣、財務大臣、農林水産大臣、国土
交通大臣に次の意見書を提出しました。

新たな過疎対策法の制定に関する意見書

過疎対策については、昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」制定以来、3次にわたる特別措置法の制定により、総合的な過疎対策事業が実施され、過疎地域における生活環境の整備や産業の振興など一定の成果を上げた。

しかし、人口減少と高齢化は特に過疎地域において顕著であり、路線バスなど公共交通機関の廃止、医師及び看護師等の不足、耕作放棄地の増加、森林の荒廃など生活・生産基盤の弱体化が進むなかで、多くの集落が消滅の危機に瀕するなど、過疎地域は極めて深刻な状況にある。過疎地域は、我が国の豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとであり、また都市に対して食糧や水資源の供給、自然環境の保全といやしの場を提供するとともに、森林による地域温暖化の防止に貢献するなど多面的・公共的機能を担っている。

現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は平成22年3月末をもって失効することとなるので、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させることが必要である。よって、新たな過疎対策法の制定を強く要望する。

平成21年6月16日

群馬県・片品村議会議長 入澤 登喜夫

【繰越計算書の報告】

H20年度からH21年度に
明許繰越した一般会計、
簡易水道特別会計におけ
る財源等の計算書報告が
あった。

○ H20年度一般会計で
は、10事業・計3億
1,632万7千円
の事業のうち、2億
1,066万6千円
の経費がH21年度へ
繰越となった。

○ H20年度簡易水道特別
会計では、管路図作成
事業、監視システム整
備事業の計2,846
万円的全額がH21年度
へ繰越となった。

※ 明許繰越とは、H20年
度歳出予算の中で、事業
の性質上、または予算成
立後の事由により、H20
年度内に支出が終わらな
いものはH21年度へ繰越
して使用することができる
こと。

◆ 固定資産評価委員 の変更。

桑原 正典氏：退任
星野 純一氏：新任

一般質問

4人村政を問う



萩原 一志議員

◆協賛金1口1万円のところ教社に50万円をお願いをした事実は

教育長 夢としてこれだけ集まればと語った

◆協賛願いが村長・教育長連名で出された時の相手に対する心情的影響をどう考えるか

村長 あくまで賛同した方々の協賛であると理解している

問 第1回尾瀬文学賞尾瀬国立公園俳句大会（主催 片品文化協会）を第2回尾瀬文学賞俳句大会（主催 俳句大会実行委員会）に変えなければならなくなった経緯と理由は、

答（教育長） 運営母体であった文化協会から反省点を生かし、新しい体制での発展を確認した。

問 実行委員会設立前に実施内容決定、協賛願等配布、すでに協賛申し出があるが、これからできる実行委員会の権限と役割は、

答（教育長） 核となる部分は引き継がれているので新たな実行委員会のもと、事業計画・予算の承認を受けて運営していく。

問 設立準備会を設け、相談しながら村民に理解をいただき進めていく必要性を考えたか。

答（村長） 昨年の実行委員会を母体に推進することが最善と判断し、準備委員会は設けなかった。

問 県の地域力向上事業補助金が100万円計上されているが単年度か。

答（教育長）

可能であれば3年間までと聞いている。

問 3年後は100万円の処置をどうするのか。

答（教育長）

今年は大きく宣伝したく広報費を大きく見積もつてあるが、来年は事業を見直す中で規模を考えていく。

問 協賛金の1口1万円は高くないか。

答（村長）

妥当かは文化協会役員・文芸部員にお願いした。

答（教育長） 金額は妥当だと考えている。

問 協賛をお願いする中で教育長が50万円と言った事をどう思うか。

答（村長）

それを聞いていた訳ではない。

問 賛同協賛者に取下げのお願いに行つたか。

答（教育長）

利害関係団体等はこちらで辞退した。

問 事前に調べてお願いを出せなかったのか

答（教育長）

村の事情・歴史的経緯を知らない中、思いだけで進めてきた。

問 そういうことを教育長に教えなかったのか。

答（村長）

反省すべき点は反省し次に活かしていきたい。



高橋 正治議員

◆村営住宅の整備について

村長 早急に進める

◆下水道加入促進対策は

村長 加入促進に向けた組織づくりを行う

◆観光振興対策の取り組みについて

村長 観光片品の発展を目指す



老朽化した村営住宅

問 村営住宅については、環境整備の推進を図り、入居者に快適に利用していただけるよう、水洗トイレの整備と計画的に修繕等が必要と考えるが。

答 (村長)

入居者の快適な住環境を整備する観点からも早急な合併浄化槽の整備を進めたい。なお、建物については、建設以来約30年経過し老朽化している。今後修繕等を計画的に進めていきます。

問 村として大きな課題となつている下水道加入促進対策について今後を見据えてどのような対策を図るか。

答 (村長)

下水道事業の健全財政を推進するためにも、加入促進は極めて重要な課題でありますので、整備済み区域で加入率の低い地区については、加入促進に向けた組織づくりをしております。今後は職員一丸となり更に加入促進に向けた努力をしていく。なお、加入に際しては、利子補給制度がありますので、この制度を活用し多くの皆様

に加入していただきたいと思ひます。

問 下水道の未整備地区については、合併浄化槽の個人設置型を中心として整備を進めていくと思ひますが、その概要と設置者への補助対応についての考えは。

答 (村長)

公共下水道事業及び農業集落排水事業区域以外の地区については、合併浄化槽を推進しており、個人設置型を選択し、年間10基程の事業を実施しております。

補助金については、設置者に補助金を交付しています。5人槽までが27万9千円、7人槽が36万円、8人槽以上が47万7千円となっております。補助金額については今後十分に検討していきたいと考えておりますので有効に活用していただきたいと思ひます。

問 観光振興は片品村にとり必要不可欠であり、農業の発展とともに大いに期待しているところでありますが、近年の経済の不況により宿泊客が大きく減少しており、関係

者は大いに苦慮をしております。この非常時ともいふべき状況下において村としてどのような対策を講じるのか。

答 (村長)

農業と観光を主産業として村づくりを推進する片品村にとつては、将来を左右する重大な課題であると認識をしております。

近年の観光市場の環境の変化に対し、様々な取組が実践されていいますが成果はまだ十分とはいへませんので村としてより一層片品らしくかつ競争力のある受入れ態勢及び商品の開発、またそのピアーオール、営業力に力を感じその母体となる組織づくりが大切だと考えますので、観光関係者を主体とし、農業、林業、歴史、文化継承者等も加え、全体的な組織作りを行い、体制の確立、観光商品づくりを進めます。

これを元に観光協会を中心に積極的に親善大使や友好関係にある自治体等に働きかけるとともに県の観光国際協会等とも連携し、豊かな自然に恵

まれた片品村を広く全国に発信し、観光片品の発展を目指します。

問 村営住宅については

早急に整備を進め、下水道加入促進対策並びに観光振興対策等については組織づくりを行い、いづれも積極的に取り組むとの考えでありますので関係者一体となり片品村の発展となりますよう英知を結集しての対応をお願いします。



飯塚 美明議員

◆物産館・観光案内所・都市との交流の場、以上の機能を有する道の駅の設置を

村長 慎重に検討していかなければならない



花の谷公園

問 高齢者や女性、小規模農家等の生産者の産直販売所を作ることに、所得の向上、高齢者の生きがいも生まれる。

農産物直売所、農産物加工所、農家レストランと農業・農村を変える可能性もある。

観光分野では、多様なニーズに対応の、多種多様な体験商品、村内の名所旧跡、年間イベント、村の歴史や文化等をPRする情報発信拠点の充実が必要である。そこで片品村の農業・観光商品を展示・PR・販売の場所として物産館、観光案内所、そして都市との交流の場の機能も有する施設として、例えば、花の谷公園に道の駅を。

ただし、片品村にはトウモロコシ街道あり、ここに携わる方々の立場を第一に重視して検討しなければなりません。その上で、片品村の産業活性化としての視点で、どのようにお考えですか。

答 農産物価格の低迷や農業従事者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加等厳しい状況がある。農産物の市場価格は低迷を続けており、市場出荷だけに頼っていては農業所得の向上は期待できない。また、農産物加工をし、販売できれば、地域活性化や所得向上に大いに期待をもてる。

観光分野では、ニーズの多様化があり、これらの要求に対応できるような地域資源の掘り起こしと系列化、その提供方法の検討が必要である。現在ある片品村受入地域協議会を発展させ、検討していくのもいいと思う。

花の谷公園に道の駅設置については、この公園を憩いの場として利用している住民や、保護者の迎えを待つ小学生等多くの方々が利用している。従って、地域住民や利用者との意見を聞きながら慎重に検討していかねばならない。

問 農業、観光に従事する個人事業主の方々は、子供に後継者として継いで欲しいと考えている人が少ない。所得も低く、将来性が期待できないからである。これは村づく

りの基本に関わることであり、農業・観光活性化の具体的な政策立案により、早期に実行に移すことが必要である。



星野 育雄議員

◆広域的観光地としての道路網整備について

村長 関係市町村及び関係機関と協議し促進をはかりたい

問 少子高齢化と過疎化が進む片品村を活性化させるためには「隣接する栃木県・福島県・新潟県と

国道120号線の年間通行を実現するために今年どのような取り組みを

していくお考えですか。

答 (村長)

日光市長、中禅寺温泉飲食物産店組合長、湯本温泉組合長と意見交換をしてきた。今後も栃木県の方々に年間通行の必要性を理解していただくようつとめる。

問 奥鬼怒林道の拡幅整備と自由通行化を実現するために今後どのような取り組みをしていくお考えですか。

答 (村長)

この林道は片品村と日光市で同一の管理をしているので日光市と連携をとりながら関係機関に働きかけていく。

問 国道401号線車道未開通区間の早期開通を

国や県に陳情した結果どのような回答がありましたか？ 又、今後どのような取り組みをしていくお考えですか。

答 (村長)

国道401号線整備促進



奥鬼怒林道視察

問 国道120号線の年間通行について栃木県側の自治体との連携はどのように進んでいるのですか。

答 (村長)

栃木県が群馬県と共に実施する方向に進み両県が立ち上がったのはじめて実現することなので日光市の斉藤市長等にこの旨説明し協力をお願いした。今後も粘り強く取り組んでいく。

問 自然公園法では国立公園の特別保護地区であっても車道が公益上必要であれば開設できると定めています。国は尾瀬の保護に偏りすぎていないでしょうか。

答 (村長)

片品村と檜枝岐村は未開通区間の開通が目的なので尾瀬の運営委員会や尾瀬保護財団の理事会等で少しでも片品村のプラ

スなるような地元利益優先の発言をしていく。

「急いで仕事をし損じる」も得ず」という言葉もある。そこで、椎坂トンネル、そして金精峠、そして401号とどのように確実に進めていく。

【緊急質問】

萩原 一志議員

◆協賛者に1口1万円のところ50万円の協賛金をお願いした事実があるか？

教育長

お願いした事実はありません。手に迷惑をかけ申し訳ない。不適切だったと反省している。

問 私の一般質問の時、教育長が50万円の協賛金をした事実を知っていたかの問いに、村長は知らなかったと答えたが本会議休会中のやり取りで、村長・教育長と出席した方から「知っていたはずではないか」との指摘があったが。

答(村長)

具体的に誰に幾らかは承知していない。協賛金に対しては「こういう時だから無理をしないように」という話をしたと記憶している。

問 数十万円の協賛金をした事実を知り教育長

に「無理をしないように」と助言をしたと考えるが。

答(村長)

どの企業にどうゆう金額を提示したかではなく、こようゆう不況の中なので無理をしないようにという意味で説明したと思う。

問

教育長は全員協議会でA社だけは50万円のお願いをした覚えがあると聞いたが、私はB社から聞いた。実際は何社に要請したのか。

答(教育長)

正確に覚えてないが50万円お願いしたのは2社で、数十万円という言い

方は1社。

問 前回と同じ質問になるが、固定資産税の滞納を理由に、自主的に辞退をするよう要請したか。

答(教育長)

職員が説明に何った折配慮に欠けた部分があり、私が釈明とお詫びに何った。

問

次長が要請に行ったが「辞退は考えていない」という相手の気持ちを持ち帰り、再度その要請に教育長が行かれたと聞いたが。

答(教育長)

固定資産税滞納うんぬんで釈明に行ったのではなく、村と利害関係があるのでお断りした。

問

村との利害関係者とは、指名参加願いを出している別の組合のことで、固定資産税滞納とは別件だと思おうか。

答(教育長)

釈明とお詫びに行っただけで辞退要請はしていない。

問

今回の協賛金申出人に対し自主的辞退を要請した事実をご存知か。

答(村長)

事後報告により承知した。詳細は教育委員会にお願いしてある。配慮に欠けた点でご心配、ご迷惑をかけた方々に対し心からお詫び申し上げたい。

〔常任委員会管内視察〕

■総務文教常任委員会

7月2日に管内視察を行いました。10時より北小、北保育園から始まり各小学校と各保育園、片品中体育館の視察をおこない、関係者から説明を受けました。最後に鎌田の床なし体育館の土地を視察、4時より総務文教常任委員会の会議を行いました。

(委員長 星野侃三)



北保育園庭の遊具設置作業



今年大規模改修される
中学校体育館

■観光産業常任委員会

観光産業常任委員会は、7月10日、9ヶ所の管内視察を行った。

まず、東小川のバードゴルフ場を見て回った。おもに県オープンング祭前の集中練習場所として使用。そこから、下鎌田の河川敷にできた広場を尾瀬大橋から一望するかたちで視察した。用途は、現在検討中。

須賀川の村営住宅に向かった。建設から30年目となるため、老朽化が進んでいる。近く70人規模の浄化槽ができ、ガス設備も改善される予定。



村営住宅の視察

「ポットン」便所から水洗トイレになると聞いて、入居者である女性は喜んでいました。

そして、そこからほど近い、村道須賀川御座入線「御座入橋」の建築現場にて、沼田土木鎌田事業所の須田所長より工事の進行具合の説明を受けました。

3年で完成とのこと。次に国道平川横塚線「幡谷橋」に移動し、同橋の上へヘルメット着用で上がり、工事関係者より説明を受けた。スキースーズン前に完成予定。



建設中の幡谷橋

昼食は、花の駅でとり、一般車両は通行止め状態にある村道7号線に入って道路の修復状態と今後の工事計画を確認した。乗車したマイクロバスは武尊牧場下の東俣駐車場まで行ってきた。

そして、オグナほかかスキー場近くに増加中の別荘群（現在約30軒）を視察、生活ゴミ収集などの急ぎの対応を考慮する機会となった。その後、築地の片品農協の農産物集荷場を視察。それから菅沼のラベンダ―畑では、イノシシによる畑被害を見て、あらためて増加傾向の鳥獣被害への対策の重要性を認識した。

役場に戻って、管内視察を終えての委員会協議を行なったが、話題の中心は新規別荘の生活ゴミ取り扱いを含む条例の必要性だった。役場は管理会社とも話し合いを深めてゆく。

一連の視察とそれに伴った議会審議が村行政に最大限反映されるように願ってやまない。

（委員長 戸丸廣安）

【臨時議会】

第6回臨時議会を開催しました

日時平成21年7月9日

地域活性化・経済危機対策臨時交付金2億1千万円地方交付税約6千万円、の歳入で、簡易水道監視システム整備（特別会計）防災無線戸別受信機1900台全戸更新、地上デジタル放送難視聴解消のため東小川に中継局建設、文化センター屋根塗装、保育所、児童館にAED整備、各保育園・小学校の遊具の更新、武尊根小教室管理棟及び南小体育館耐震診断、武尊根小学校周辺整備、旧越本分校、公用車の更新、体育施設整備事業、村営住宅合併浄化槽設置、広報かたしな縮小版の全戸配布等を実施する。

こんな質疑がありました

問（星野育雄議員）

地域活性化のために本村の主要産業である観光と農業の積極的振興策が必要だと思えますがこの点についてはどのように考えていますか。

答（総務課長）

長年乏しい財源の中で出来なかつた地区要望事項の実現を中心に予算編成した。観光と農業の具体的振興策はないが広い意味で地域振興に役立つ。

問（星野育雄議員）

予算執行にあたっては、地域業者を積極的に参入させていただければ地域経済危機対策になると思いますが、この点についてはどのように考えていますか

答（村長）

地域活性化のために出来るかぎり、そうした業者を指名していきたい。

『日光市議会議員と意見交換』

7月17日、日光市議会の代表12名と本村議会議員との交流会が行われた。

◎ 120号線の年間開通

◎ 奥鬼怒林道の通行規制緩和

◎ 森林保全対策

◎ ラムサール条約登録湿地保全対策等について意見交換をしました。

その結果、道路問題は具体的に両市村で協力してどう進めるべきか今回の交流会でまとめようということでした。

森林保全対策では栃木県は、森づくり県民税として1人当たり700円を徴収して取り組んでいる



奥鬼怒林道視察

とのことでした。ラムサール条約関係について日光市議会では特別委員会をつくって協賛中ということで本年度中にこれがまとまる予定とのことでした。これを片品村議会に提供していただける見込みです。

会議の後は岩鞍ゆり園を見学させていただき奥鬼怒林道を大清水から日光市女夫淵温泉まで視察し、次回11月頃行うということでした。



日光市議会との交流会集合写真

● 編集後記 ●

片品村の主産業であります、観光と農業も夏季の賑わいや収穫繁忙期を向かえ、活気を呈しているところです。

村の議会も、今回定例会より一般質問の形式を一回一答方式で行う事となりました。時間制限等は設けてありますが、従前に増して審議も深まる事と思えます。

本号より編集委員が変わりました。厳しい経済状況のなかですが、村の全産業が元気になるよう、ご祈念させていただきます。き一年間宜しくお願い申し上げます。

【笠原 耕作記】

会 夫 作 明 郎 雄 志 三 安
議 登 耕 美 日 育 一 侃 廣
村 原 塚 原 野 原 野 丸
品 入 笠 飯 萩 星 萩 星 戸
片 登 原 萩 星 萩 星 戸
行 入 笠 飯 萩 星 萩 星 戸
発 行 責任者 編集委員 ◎ ○
印 刷 所 笠原印刷有限公司

お知らせ ◎ 次回定例会 9月8日(火)～17日(木)の予定です。
一般質問は、8日の予定です。みなさんの傍聴をお待ちしています。**【問い合わせ TEL 58-2119】**

議会だより・会議録がホームページで見られます。
URL: <http://www.vill.katashina.gunma.jp/>